

王子公園 再整備基本方針

令和4年12月

神戸市

目 次

1. 背景	1
(1) 王子公園の位置と歴史	
(2) 王子公園周辺の現況	
(3) 王子公園の施設概要及び課題	
2. 再整備の意義	3
(1) 再整備の位置付け	
(2) 王子公園再整備の意義・効果	
3. 再整備の基本目標とゾーニング	4
(1) 5つの基本目標	
(2) ゾーニング	
4. 再整備による各施設の方向性	6
5. 再整備の進め方	7
6. 参考	8
(1) 王子公園の概要	
(2) 施設の管理・運営	
(3) 施設の利用状況	
(4) 駐車場の整備台数	

1. 背景

(1) 王子公園の位置と歴史

王子公園は、本市の都心である三宮・元町の東約3 kmに位置しており、駅に近く利便性の高い貴重な空間です。この一帯はかつて「原田の森」と呼ばれ、明治中頃まで田畑が広がっていました。

1889年（明治22年）に創立された関西学院を皮切りに、神戸高等商業学校（現：神戸大学）や松蔭女子学院、神戸海星女子学院が開校されました。また、1919年（大正8年）に市電上筒井線の終点「筒井駅」が開業し、翌年には阪神急行電鉄「上筒井駅」が開業されました。

1950年（昭和25年）には王子公園（19.2ha）が供用され、戦災復興と産業の発展のため神戸博が開催されました。翌年の1951年には、その跡地に諏訪山動物園を継承するかたちで、現在の王子動物園が開園し、1956年の第11回国民体育大会の開催にあわせてスポーツ施設が次々と整備されました。このように、王子公園一帯は、近代から高度成長期の神戸の発展に先導的な役割を果たしてきた地域です。

また、王子公園は1995年（平成7年）の阪神・淡路大震災において、災害対応機能として自衛隊や消防応援を受け入れ、物資拠点機能、住民避難機能などを備えた広域防災拠点としても大きな役割を果たしました。

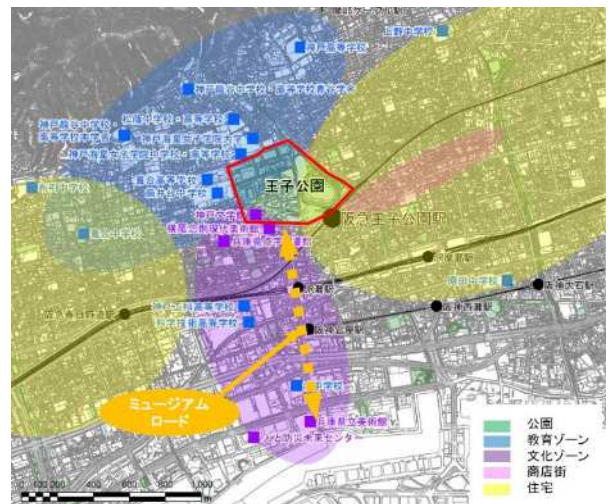
(2) 王子公園周辺の現況

阪急王子公園駅周辺は六甲山系の美しい山並みを背景とした阪神間を代表する景観が広がり、良好な住環境が形成されています。

また、文化施設や教育施設、スポーツ施設が集積する学術・文化のまちとして発展を遂げてきました。南北を貫く「ミュージアムロード」には、多くの芸術作品が設置されているほか、阪神・淡路大震災からの「文化の復興」シンボルとして、2002年に建設された兵庫県立美術館や2012年に王子公園前に開館した横尾忠則現代美術館などもあり、多くの方々が市内外から訪れる文教エリアとして魅力的な地域となっています。



【1915年（大正4年）頃の原田の森】



【土地利用状況図】

(3) 王子公園の施設概要及び課題

① 施設概要

面積：約 1.0 ha
設置：1978 年

面積：約 1.1 ha
設置：1956 年

面積：約 1.0 ha
設置：1960 年

面積：約 8.1 ha
設置：1951 年

面積：約 2.6 ha
設置：1956 年

その他施設	②	③	④	⑤	⑦
	ちびっこ広場	弓道場	わんぱく広場	北獣舎(動物園)	旧ハンター住宅
	⑧	⑨	⑩	⑬	⑯
	補助競技場	相撲場	神戸登山研修所	神戸文学館	原田児童館

② 課題

- 施設が老朽化しており、時代の変化への対応も求められています。
 - ・供用後 70 年が経過した施設もあるなど、全体的に老朽化が顕著です。
 - ・老朽化とともに現在のバリアフリー基準に適合していない施設があります。
 - ・動物園では、開園当初からの獣舎が一部残るなど施設が老朽化していることに加え、展示方法や近年高まっている動物福祉の向上の観点からも改善が求められています。

- 利便性が高い文教エリアのポテンシャルを十分に活かせていません。
 - ・総合公園でありながら利用者が限定される施設が多く、一般に開放された空間が点在しているうえに、利用期間が限られている施設もあり、憩い、くつろげる空間が多くありません。
 - ・駅に近い南東部や南北通路が駐車場として使われています。
 - ・交通至便な文教エリアとして、持続可能な神戸の発展に資する新たな価値の創出が求められます。

2. 再整備の意義

(1) 再整備の位置付け

『神戸 2025 ビジョン (令和 3 年 4 月)』において、市民一人ひとりが安心安全で心豊かに幸せを実感できる生活を享受でき、将来を担う若者が輝き、活躍できる持続可能な社会を築く「海と山が育むグローバル貢献都市」をめざしています。

また、令和 4 年 6 月 7 日に閣議決定された「骨太の方針 2022」では、「創造性を発揮して付加価値を生み出していく原動力は人である」として、「人への投資」の拡大に向けて「未来を支える人材を育む大学等の機能強化」を図るとされています。

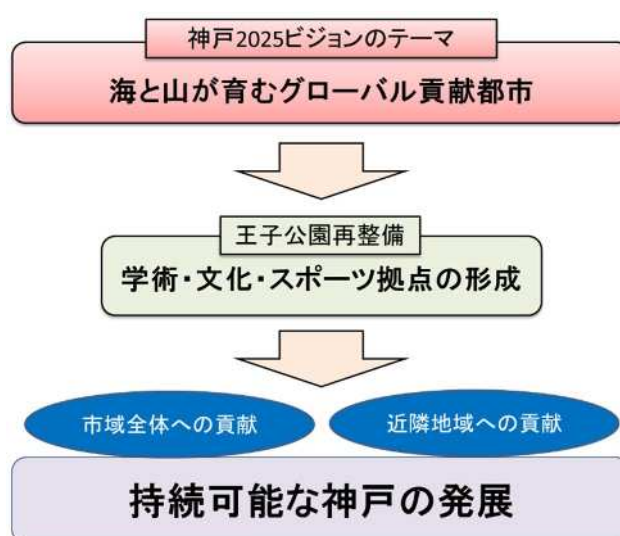
(2) 王子公園再整備の意義・効果

王子公園は阪神間を代表するエリアにあり、若年定住・交流人口の増加や都市ブランドの向上を図り、持続可能な神戸の発展を実現するためには、その高いポテンシャルを活かすことが不可欠であり、王子公園再整備は極めて重要な役割を果たします。

再整備により、文教都市・神戸としての地位を高め、王子公園エリアの新たな価値を創出するためには、大学誘致は最も有力な施策であり、これは、神戸の将来を牽引する優秀な人材の確保・育成・輩出の点からも重要です。一方、少子化が進む中でも学生が確保しやすい大都市中心部への立地志向が高まっており、大学の「都心回帰」が進んでいます。大学や学生のニーズを取り込み、質の高い競争力のある大学を誘致することにより、イノベーション機能の強化、産学連携による地元企業の成長、スタートアップ強化による雇用創出など、神戸市民の所得を向上させ、新たな雇用の場を創出するとともに、地域コミュニティにおける担い手不足の解消など学生による社会貢献、学びなおし（リカレント教育）の機会の提供などが期待できます。

また、王子公園など神戸市内の大規模公園のあり方を定めた『大規模公園ビジョン(令和 3 年 3 月)』では、「みんなに愛されるゆとり空間の創出と充実」や「持続可能な公園運営を実現するための改革と連携」などの基本方針を定めており、持続可能で魅力的な公園にリノベーションすることも重要です。さらに、市民の健康増進、スポーツ振興の観点から、市域全体としてスポーツ施設の魅力を高めていきます。

再整備にあたっては、古くから「原田の森」として育まれた歴史を踏まえ、山から海まで広がる神戸を代表する美しい景観を大切に守りながら、王子動物園をはじめとする公園内の施設を適切に維持・更新し、将来の世代へ確実に継承します。あわせて、新たな交流機会の創出など地域の賑わいづくり、地域商業などの活性化・経済効果などにより、周辺住民の生活の質の向上を図り、王子公園再整備が「市域全体への貢献」と「近隣地域への貢献」の両立を果たしつつ、「グローバル貢献都市の実現」を牽引していきます。



3. 再整備の基本目標とゾーニング

(1) 5つの基本目標

① 新たな「原田の森」の創造

- ・1204年に王子神社が建立されて以来、育まれた歴史や文化を踏まえ、王子公園再整備にあわせて新たな「原田の森」の創造を目指します。

② 学術・文化拠点のシンボルの創出

- ・神戸にふさわしい、そして王子公園の地にふさわしい国際性や多様性を高める特色のある大学を誘致します。
- ・誘致にあたっては、「大学運営（教育・研究内容等）」「地域貢献」「地域経済」「都市計画・景観等」「安定性・継続性（財務・会計）」の5つの視点を重視します。
- ・周辺文化施設・教育施設と誘致する大学との連携により、学術・文化拠点としての機能強化を図ります。

③ 王子動物園の魅力向上

- ・交通至便な駅前の立地特性を生かし、これまで通り市民が身近に楽しめる魅力ある動物園として現在の場所でリニューアルします。
- ・動物福祉にも十分配慮した新たな展示方法等を導入するなど、老朽化した獣舎を再編・再整備するとともに、動物園にふさわしいレクリエーション機能も備えた動物園とします。
- ・動物園に求められる役割である「種の保存」「調査研究」「教育」の公益的な役割が大きいことから、今後も公の施設として神戸市が責任をもって運営します。

④ 公園とスポーツ施設のリノベーションと魅力向上

- ・緑豊かで桜の名所として親しまれている自然環境や景観の保全、市民の憩いやスポーツ・子どもたちの学びや成長の場としての利用など、子どもから高齢者まで誰もが気軽に訪れ日常的に使うことのできる、居心地の良い、ゆとりある空間づくりを目指します。
- ・公園のエントランスに「（仮称）緑の広場」を整備するなど、憩い・くつろげる空間を拡張し、安全・安心に配慮した、より開放的な公園とします。
- ・アメリカンフットボール、サッカーやグラウンドゴルフ、ラクロス、運動会や地域のイベントなど、引き続き幅広い競技・用途で利用いただけるスタジアムを整備するなど、本格的な競技から体力づくりまで幅広い運動ニーズに対応できる施設づくりをめざします。

⑤ 広域防災拠点の機能強化

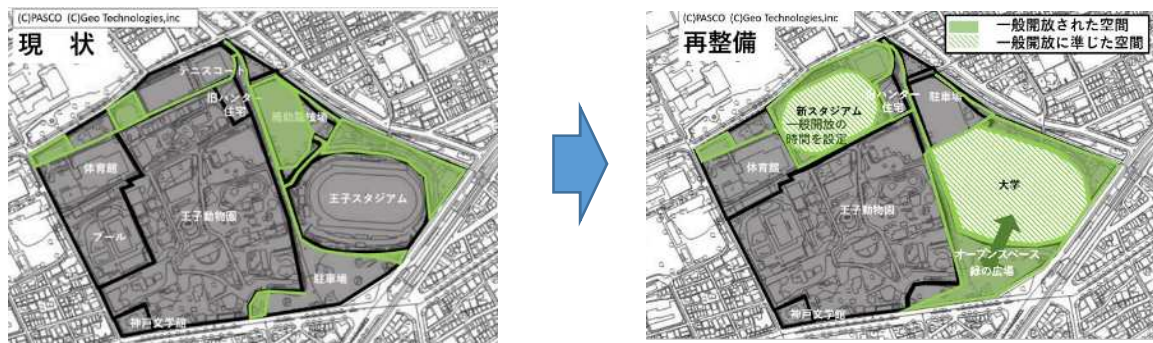
- ・避難場所や災害活動の拠点として各施設を充実させることで、広域防災拠点の機能強化を図ります。

(2) ゾーニング

誰もが憩い、くつろげる一般に開放された空間を拡大すること、ゾーン間の物理的つながりと視覚的な拡がり確保することを重視し、公園全体の一体感の醸成と回遊性の向上を図ります。また、多目的な広場をバランスよく配置し、誰もが使いやすい、より開放的な公園として再整備することを目指します。



ゾーン名称	ゾーニングの考え方
動物園ゾーン	・位置を大きく変更することなく現在と同程度の敷地面積を確保
大学ゾーン	・キャンパス内の「オープンスペース」と「緑の広場」が一体となることで、開放感のある魅力的な空間を創出できることから、緑の広場に隣接して配置
スポーツゾーン	・既存の体育館や弓道場が立地する王子公園北側に施設を集約することで、空間的にも機能的にも使いやすいエリアを創出
緑の広場	・王子公園駅に隣接する利便性の高い場所にある現在の平面駐車場の配置を見直し、開放的な空間として駅前に整備 ・緑の景観軸として、緑の広場から王子公園内の各ゾーンを結ぶ快適な遊歩道「(仮称)シンボルプロムナード」を整備
駐車場	・補助競技場の位置に立体化して集約するとともに、公園東側の現在の遊歩道部に駐車場への進入路と魅力的な歩行者空間を確保



【一般に開放された空間のイメージ】

4. 再整備による各施設の方向性

各施設の利用状況や全市的な配置状況などを踏まえ、園内外で再整備、代替・機能確保を図るとともに、機能の集約化や運用の工夫により、市民のみなさまの利用ニーズに応えられるよう、出来る限り従前施設の機能を確保します。

整備にあたっては、桜をはじめとする樹木の保全や新たな植樹、建物の高さやデザイン、壁面緑化等により、公園全体として六甲山の山並みと調和した良好な景観を維持・創出できるよう配慮します。

また、防災機能について、新たに整備するスタジアムや緑の広場、既存の体育館など各施設の機能分担・連携を図り、へり離発着機能、災害時の物資の集積・備蓄機能、応急給水拠点、緊急車両用の通路など、従前の機能の維持・向上を図ります。

施設	方針	内容
動物園(獣舎等)	再整備	<ul style="list-style-type: none"> 動物園と遊園地をあわせて現在と同程度の敷地面積を確保 新たな展示方法等の導入など魅力の向上 動物福祉に配慮した施設の更新 市が公の施設として責任を持って運営
動物園(遊園地)		
駐車場	再整備	<ul style="list-style-type: none"> 動物や景観に配慮し、補助競技場跡地に立体駐車場を整備 壁面緑化や植樹などにより、周辺環境や六甲山系の山並みに配慮 建物の高さやデザインなどを工夫することにより、圧迫感を軽減 屋上の一部をスポーツゾーンとして活用
大学	新設	<ul style="list-style-type: none"> 国際性や多様性を高める特色のある大学を誘致 グローバル人材の育成という観点から、競争力の高い大学を誘致 学生の社会貢献、学びなおし(リカレント教育)等の機会を創出 緑の広場と一体となったキャンパスにより、開放的な空間と魅力的な景観を形成
スタジアム (フィールド) (トラック)	再整備	<ul style="list-style-type: none"> アメリカンフットボール、サッカーやグラウンドゴルフ、ラクロス、運動会や地域のイベントなど、引き続き幅広い競技・用途で利用いただけるスタジアムを整備 練習用400mトラック(4レーン)を整備 フィールド・トラックともに一般開放の時間帯を設定 騒音や照明について近隣住民に配慮した設備や運用を検討
補助競技場	機能確保	<ul style="list-style-type: none"> 公園内で、ラジオ体操やジョギングなどを行える機能を確保 緑の広場やスポーツゾーン内に多目的に利用できる広場を整備 新スタジアムで一般開放の時間帯を設定
プール (50m・25m)	廃止 (園外施設の充実)	<ul style="list-style-type: none"> 市内の公営プールの立地状況を踏まえ、新ポートアイランドスポーツセンター50mプールの可動床の導入及び50m・25mプールのレーン増設により一般利用を促進
プール(幼児用)	機能確保	<ul style="list-style-type: none"> 緑の広場に水遊びができる親水施設を新設
テニスコート	代替	<ul style="list-style-type: none"> 市内の立地状況等を踏まえ、ポートアイランドに新たに6面新設
	再整備	<ul style="list-style-type: none"> 近隣利用を踏まえ、王子公園内(スポーツゾーン)に2面整備
緑の広場	新設	<ul style="list-style-type: none"> 現在の駐車場の位置に「緑の広場」を整備 「シンボルプロムナード(遊歩道)」と一体となり、各ゾーンの結節点となる新たな緑地軸・景観軸を形成 ラジオ体操や地域活動、大学との交流に活用できる多目的な芝生広場、遊具、親水空間、にぎわい施設などを設置
ちびっこ広場	再整備	<ul style="list-style-type: none"> スポーツゾーン内で一体的に整備し機能を充実(体力向上にもつながる新たな遊具、多目的に利用できる広場等)
わんぱく広場		
相撲場	廃止 (市内施設の活用)	<ul style="list-style-type: none"> 王子公園外の既存施設を有効活用
登山研修所 (クライミング施設含む)	再整備	<ul style="list-style-type: none"> 他のスポーツ施設との一体的利用が見込めるスポーツゾーン内へ再配置
体育館 弓道場 旧ハンター住宅 神戸文学館 原田児童館	存続	<ul style="list-style-type: none"> 適時必要な方策を検討

再整備 : 王子公園内に従前の施設をリニューアルするもの

代替 : 王子公園外に従前と同等の施設を確保するもの

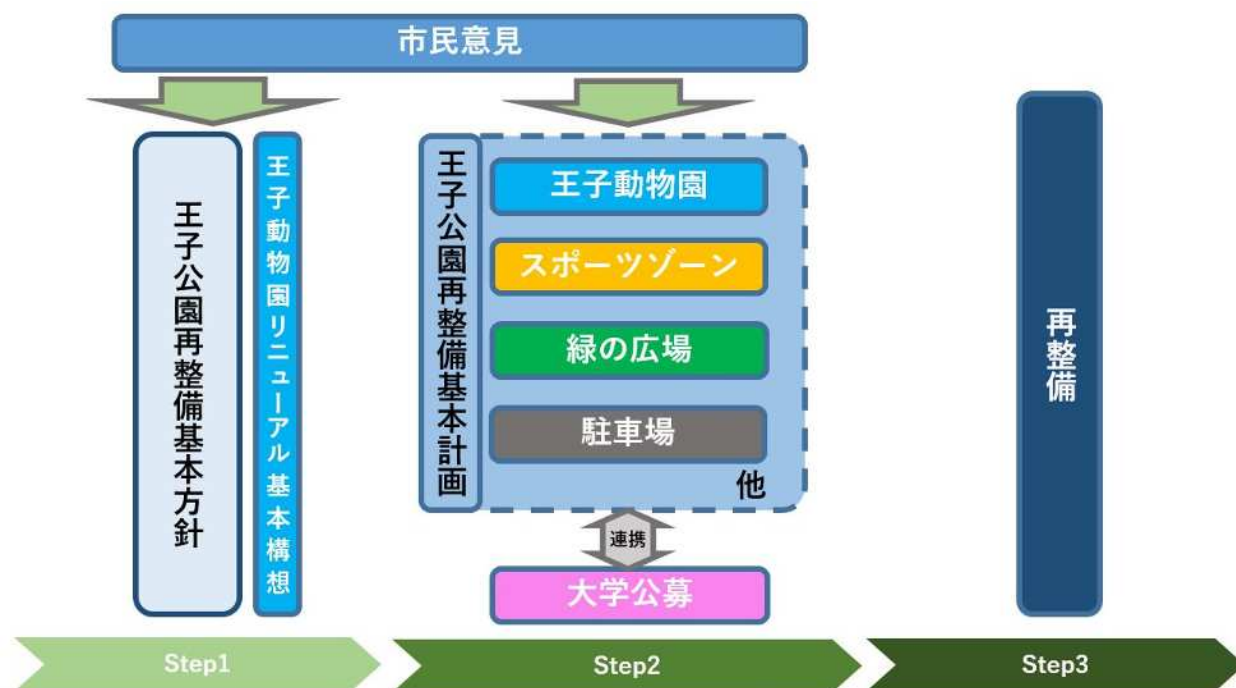
機能確保 : 王子公園内に概ね従前の機能を確保するもの

5. 再整備の進め方

「王子公園再整備基本方針」は、再整備の基本目標やゾーニングなどを示すものです。

基本方針に基づき、各施設の具体的な整備内容やデザイン、事業全体のスケジュール等を定める基本計画を策定する予定です。

基本計画策定にあたっては、これまで市民のみなさまからいただいたご意見を含め、改めてご意見を伺いながら、動物園やスポーツゾーン、緑の広場など、施設ごとに検討を深めていきます。



【進め方のイメージ】

6. 参考

(1) 王子公園の概要

名称（公園名）	王子公園
種別	都市公園 総合公園
所在地	神戸市灘区王子町2、3丁目、青谷町1丁目
面積	191,500 m ² （供用区域）
設置年月日	昭和25年1月20日
防災施設	兵庫県指定「ヘリコプター臨時離着陸適地」、 地域備蓄拠点、防災行政無線、災害時給水拠点ほか

(2) 施設の管理・運営

園内施設の管理・運営状況としては、市が直接運営している施設や指定管理者制度を導入している施設のほか、市から管理許可・設置許可・管理委託を受け、個別の団体が管理している施設があります。

管理・運営 形態	直営	指定管理	設置許可 管理許可	管理委託
施設名	動物園（遊園地除く） 王子公園 駐車場 児童館周辺園地	体育館 スタジアム プール テニスコート 相撲場 補助競技場 わんぱく広場 ちびっこ広場 神戸文学館 <国登録有形文化財> 原田児童館	遊園地 弓道場 （近的・遠的） 王子スポーツセン ター駐車場 （北側・南側） 神戸登山研修所 （クライミング施設含む）	旧ハンター住宅 <国指定重要文化財>

(3) 施設の利用状況

(年間利用者数：人)

利用者数	H29 年度	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度
王子動物園	1,107,212	1,087,562	1,044,659	645,893	738,512
スポーツセンター (体育館・柔剣道場)	175,653	183,226	163,333	99,485	112,130
スタジアム	87,393	76,186	78,270	49,698	62,458
補助競技場 (※1)	—	—	—	—	—
プール	38,462	34,647	29,738	5,609	8,317
テニスコート	32,768	32,037	27,006	22,579	27,090
相撲場	590	400	514	72	369
弓道場	27,229	28,574	26,703	15,850	21,958
登山研修所 (※2)	2,955	3,304	3,079	1,530	2,171
旧ハンター住宅	37,319	66,782	52,442	26,715	27,753
神戸文学館	20,680	21,922	21,272	15,276	14,949

(※1) 一般開放されているため全利用者数は把握していない。

(※2) クライミング施設の利用者数(会議室利用者を除く)

(4) 駐車場の整備台数

園内には駐車場が3か所あります。また動物園の繁忙期には、補助競技場を臨時の駐車場として運用しています。

駐車場名	駐車台数	料金
王子公園 駐車場 (※3)	【常時】普通車 390 台・バス 5 台 (普通車スペースに大型バス 駐車可) 【臨時】普通車 250 台(補助競技場)	0～2 時間までの 30 分につき 150 円 2～4 時間までの 30 分につき 100 円 4 時間を超える 30 分につき 50 円
王子スポー ツセンター	【北側】 57 台 【南側】 65 台	30 分毎 100 円 【最大】 21 時 30 分まで 1,100 円 翌 8 時 30 分まで 1,500 円 21 時 30 分～翌 8 時 30 分まで 1,100 円

(※3) 王子公園 駐車場の利用状況について (H30 年度実績)

臨時駐車場使用 (390 台超)：年間 68 日

満車 (640 台超)：年間 49 日